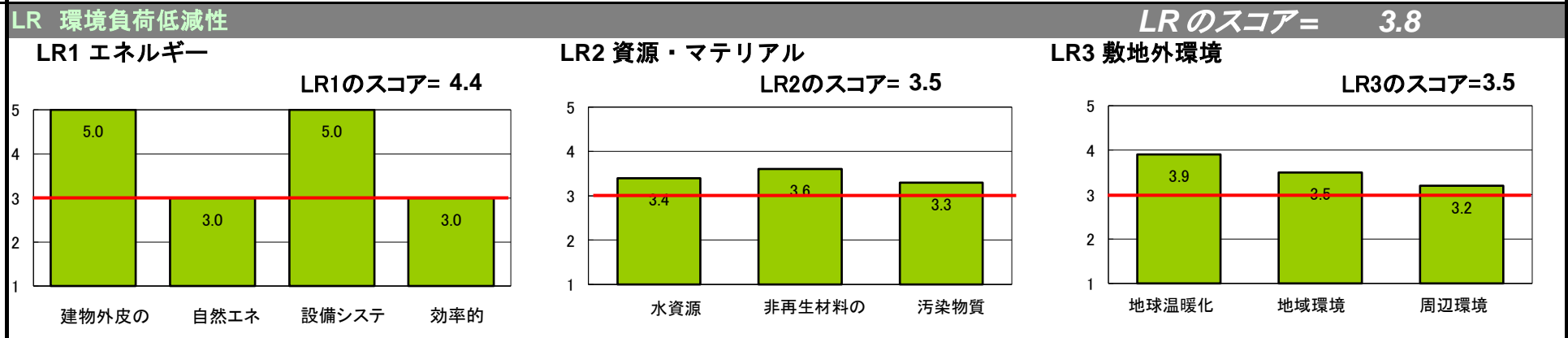
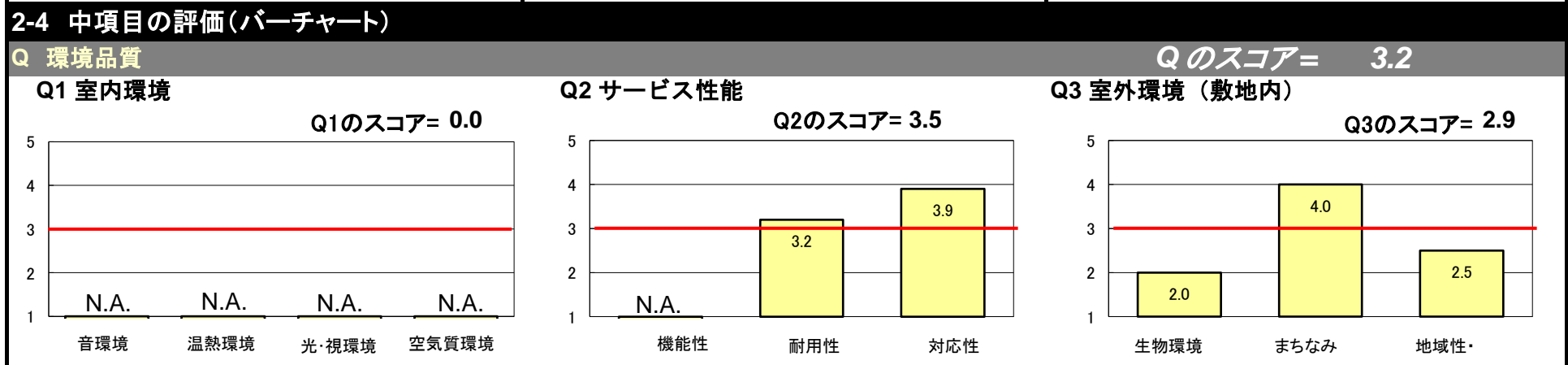
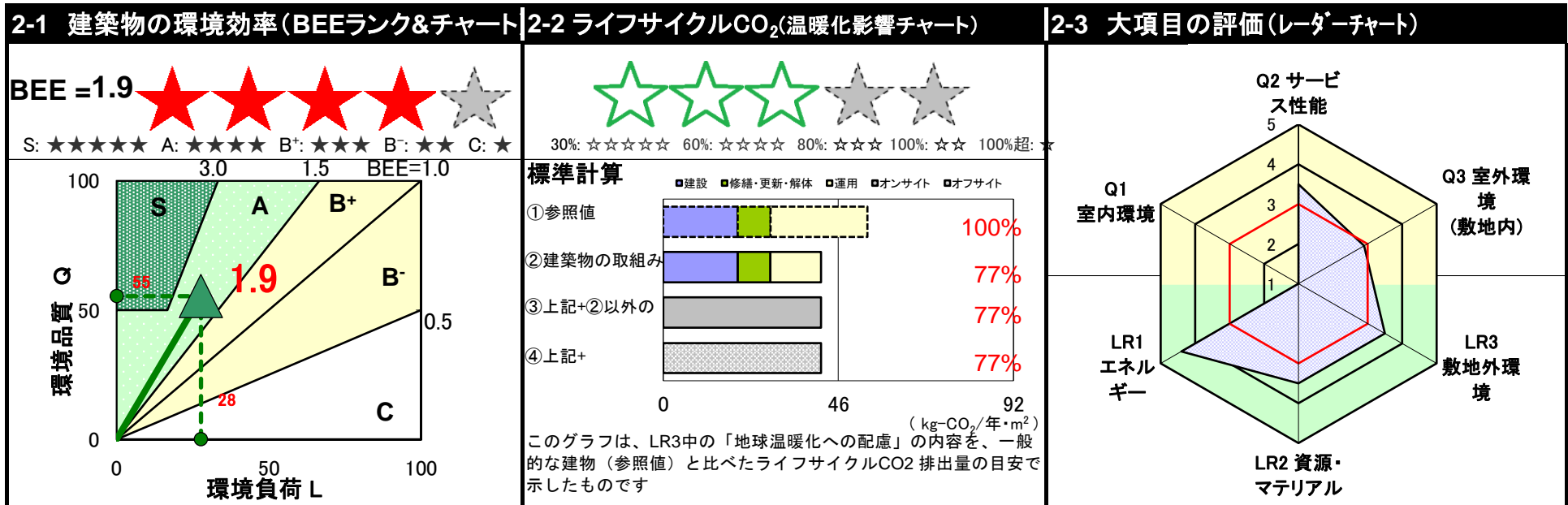


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛西市物流施設	階数	地上3階
建設地	愛知県愛西市南河田町八龍5-5、5-6、5-7	構造	S造
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	110人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年7月8日
敷地面積	9,582 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤 毅
建築面積	5,225 m <sup>2</sup>	確認日	2020年7月8日
延床面積	13,730 m <sup>2</sup>	確認者	佐藤 毅



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.9</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>29.9 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>3.5</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		<p><b>Q 建築物の環境品質</b></p> <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p><b>1 音環境</b></p> <p>1.1 室内騒音レベル</p> <p>1.2 遮音</p> <p>1 開口部遮音性能</p> <p>2 界壁遮音性能</p> <p>3 界床遮音性能(軽量衝撃源)</p> <p>4 界床遮音性能(重量衝撃源)</p> <p>1.3 吸音</p> <p><b>2 温熱環境</b></p> <p>2.1 室温制御</p> <p>1 室温</p> <p>2 外皮性能</p> <p>3 ゾーン別制御性</p> <p>2.2 湿度制御</p> <p>2.3 空調方式</p> <p><b>3 光・視環境</b></p> <p>3.1 昼光利用</p> <p>1 昼光率</p> <p>2 方位別開口</p> <p>3 昼光利用設備</p> <p>3.2 グレア対策</p> <p>1 昼光制御</p> <p>3.3 照度</p> <p>3.4 照明制御</p> <p><b>4 空気質環境</b></p> <p>4.1 発生源対策</p> <p>1 化学汚染物質</p> <p>4.2 換気</p> <p>1 換気量</p> <p>2 自然換気性能</p> <p>3 取り入れ外気への配慮</p> <p>4.3 運用管理</p> <p>1 CO<sub>2</sub>の監視</p> <p>2 喫煙の制御</p> <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p><b>1 機能性</b></p> <p>1.1 機能性・使いやすさ</p> <p>1 広さ・収納性</p> <p>2 高度情報通信設備対応</p> <p>3 バリアフリー計画</p> <p>1.2 心理性・快適性</p> <p>1 広さ感・景観 (天井高)</p> <p>2 リフレッシュスペース</p> <p>3 内装計画</p> <p>1.3 維持管理</p> <p>1 維持管理に配慮した設計</p> <p>2 維持管理用機能の確保</p> <p><b>2 耐用性・信頼性</b></p> <p>2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>1 耐震性(建物のこわれにくさ)</p> <p>2 免震・制震・制振性能</p> <p>2.2 部品・部材の耐用年数</p> <p>1 躯体材料の耐用年数</p> <p>2 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>4 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>5 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>6 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>2.4 信頼性</p> <p>1 空調・換気設備</p> <p>2 給排水・衛生設備</p> <p>3 電気設備</p> <p>4 機械・配管支持方法</p> <p>5 通信・情報設備</p>											

3 対応性・更新性				0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9	
3.1 空間のゆとり		②	3階の階高 6.10m(最も低い) 壁長さ比率 0.08 倉庫 15.000N/m <sup>2</sup> (地震用の値が床用に比べ小さい)	0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	3.0	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.9	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	1)落ち着いた外観デザインで周辺のまちなみと調和するよう配慮している 2)平面駐車場を植栽により修景している 5)交通量が多いあま愛西線を視点場に設定、周辺建物(住宅)に調和するよう白を基調とした落ち着いた外観デザインとしている	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.8	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> 0.65	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI <sub>m</sub> 0.52	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			過半以上の水栓に節水可能な仕組を装置、省水型機器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	スタイロフォームB2(屋根)、LED照明(倉庫・事務所)	3.0	4.0	0.21	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	PB+LGS、OAフロアを使用(事務所)	3.0	5.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-		
1			消火剤	-	-	-	-	-	-		
2			発泡剤(断熱材等)	-	4.0	0.50	-	-	-		
3			冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-		
【スタイロフォームB2】ODP=0、GWP=3				-	-	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出量77%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-		
1		独自	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	-		
2		独自	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-		
3		独自	I 1)適切な量の駐輪場を確保している II 1)適切な量の駐車場を確保している II 2)トラックバースあり II 3)出入口は交差点付近を避けている	-	5.0	0.25	-	-	-		
4			廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1		独自	騒音	-	3.0	0.50	-	-	-		
2		独自	振動	-	3.0	0.50	-	-	-		
3			悪臭	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1			風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-		
2			砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	-		
3			日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-		
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	5.0	0.70	-	-	-		
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-		
1)「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている				-	-	-	-	-	-		
2)「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている				-	-	-	-	-	-		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)愛西市物流施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:29.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1



## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)愛西市物流施設

計画上の配慮事項	
総合	環境と働く人に考慮した、先進的な物流施設である。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	耐用年数の長い仕上げ材を使用して、建物の長寿化を図っている。また、階高や空間にゆとりを持たせることにより、利用者にとっての快適さが得られている。荷重にもゆとりがあり、高い安全性が確保されている。
Q3 室外環境(敷地内)	白を基調とした落ち着いた外観デザインとなっており、周辺地域と調和するよう配慮している。敷地周囲にはメッシュフェンスを設置して、防犯性を高めている。
LR1 エネルギー	LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	節水機器を活用して、環境に配慮している。躯体と仕上げ材は容易に分別可能、また再利用できるユニット部材を用いており、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。また、GWPの低い断熱材を使用しており、地球温暖化防止のための取組みを行っている。
LR3 敷地外環境	燃焼機器の不使用や光害の抑制など、環境配慮に努めている。また、自転車置場や駐車場、トラックバースを確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。
その他	特になし